

「ウォークラリー研修」実施要領

国立江田島青少年交流の家

1 内容

グループで協力しながら、コマ図を頼りに所内を回って用意された問題を解き、得点を競う。

2 ねらい

- ・施設に関連した問題を解きながら、交流の家について知る。
- ・グループで活動し、協調性を養う。

3 対象者

小学生以上

4 人数

最大 80 人

5 実施時期、時間、場所等

- (1) 実施時期…通年
- (2) 時間… 9時30分～12時00分
13時30分～16時00分
活動時間… 1時間～1時間30分
- (3) 場所…施設敷地内（一部公道あり） スタート・ゴール場所…ピロティ
- (4) 1グループの最適人数…3～6人

6 準備物

- (1) 個人：運動に適した服装 帽子 筆記用具 タオル 飲み物等
- (2) 団体：バインダー（グループ数） 携帯電話（緊急連絡用）
- (3) 交流の家：コマ図（グループ数） 問題用紙（グループ数）

7 指導・安全管理

- (1) 「ウォークラリー研修」実施要領をもとに、団体がウォークラリーの指導・安全管理等を行う。
- (2) 引率者の配置・人数・役割分担
活動団体は次の役割を担う。
 - ①総括責任者（全体の総括、緊急時の連絡担当）…1人
 - ②指導担当者（指導、用具の準備、安全管理）…1人
 - ③監視担当者（要所での安全管理）…各1人 計3人
 - ①リネン室（コマ図3番）
 - ②希望の橋下（コマ図16番）
 - ③ピロティ及びびカッター記念艇の前（コマ図28番）
 - ④救護担当者（健康観察・応急処置・AEDの設置場所を確認）…1人

※ 家族等、小集団で引率者が各グループに入り、活動する場合は、引率者が①②④の役割を兼ね、③をおこななくてもよい。

※ 監視担当者は、総括責任者・指導担当者・救護担当者が兼ねてもよい。
- (3) 事故発生時の措置
 - ①総括責任者：事故の状況を把握し、交流の家に連絡を行う。

- ②指導担当者：事故者を除いた研修生をスタート場所に集合させ、人数、名前を確認する。
 - ③監視担当者：救助に向かい、事故者を安全な場所に避難させる。
 - ④救護担当者：救助に向かうとともに、応急処置を行う。
- ※ 引率者同士は、個人の携帯電話を使って連絡を取り合う。

8 展開

- (1) 「物品利用希望書」の提出
 - 必要事項を記入し、入所時に交流の家へ提出する。
- (2) 職員との打ち合わせ（実施前）
 - 職員と指導担当者が、「物品利用希望書」の確認をし、「ウォークラリー研修」実施要領をもとに、研修に必要な物品を受け取る。
- (3) 事前指導
 - ①指導担当者は、研修生にねらいを説明する。
 - ②各グループにコマ図と問題用紙を配る。
 - ③ルールを説明する。
 - ア 時間差をつけ、1グループずつ出発しコマ図に従い番号順に進む。迷ったら、分かる番号まで戻る。
 - イ 途中にあるクイズやアクション問題に答え解答欄に記入する。
(他のグループに答えを聞いたり教えたりしたら減点)
 - ウ 合計得点で順位を競う。
 - ④団体で決めた制限時間（1時間～1時間30分）を伝える。
 - ⑤安全に関わる注意事項（危険動植物、熱中症、転倒等）を説明し、緊急の場合の引率者への連絡方法を確認する。
- (4) 研修の実際
 - ①上記の説明後、指導担当者はグループ毎に2～3分の時間差でスタートさせる。
 - ②監視担当者は、監視する場所にそれぞれ移動する。
- (5) 事後指導
 - ①指導担当者は、答え合わせをし、順位を発表する。
 - ②グループごとにふりかえりの話し合いをし、しおり等に感想を記入させる。
 - ③全体でまとめをし、解散する。
 - ④研修終了を事務室に報告するとともに、借用物品の返却をする。

9 留意点

- (1) けが防止や熱中症への注意（走らない、グループがバラバラにならない等）を徹底する。
- (2) 他団体への配慮（研修室の周りでは静かにする）を意識させる。

10 連絡先

	一般電話番号	緊急通報用電話番号
江田島消防署（救急係）	(0823) 40-0358	119
江田島警察署	(0823) 42-0110	110
江田島青少年交流の家	(0823) 42-0660 (0823) 42-0661	